

福井県介護支援専門員協会会報

# 福井ケアマネジャー

39号

発行/ 福井県介護支援専門員協会



《令和7年12月13日(土) 福井県自治会館》

## 巻頭言 ②

各支部より

細川 智洋 (若狭支部) ③

紘谷 洋幸 (福井支部) ④

奥越支部 ⑥

研修委員会より ⑧

西村 栄子 (丹南支部) ③

吉澤るみ子 (坂井支部) ⑤

村上 勝一 (二州支部) ⑦



## 〈巻頭言〉 2026年を迎えて

一般社団法人 福井県介護支援専門員協会  
会長 貴志 英生

あっという間に一年が巡り、この原稿を書く季節となりました。歳を重ねるほど時間が早く過ぎるように感じるのはなぜか——そんなことをふと考えました。決まりごとの連続は、脳に「既知の情報」と判断され、記憶の目印が薄れていきます。さらに、心が躍るような体験が減るとドーパミンの分泌も低下し、時間の流れが加速したように感じられるといいます。そもそも、10歳の一年は人生の1/10、50歳では1/50。「時間の心理的な長さは年齢に反比例する」というジャンネの法則は、私たちの実感と重なります。

さて、今年は「事務作業の機械化」や「専門職としての評価向上」という大きな潮流の中で、ケアマネジャーの働き方とキャリアが大きく変わる節目を迎えています。AIの活用、オンラインモニタリングによるテレワークの普及、デジタル化の加速。これらに応じた新たなスキルが求められる時代です。同時に、医療連携や困難事例に強いスペシャリストは、より高い価値を持ち、必要とされる場面が確実に増えていくでしょう。

そこで、これからのケアマネに必要とされる力を三つ挙げてみます。

- 1) デジタル・リテラシー：AIやICTを使いこなし、時間を創り出す力
- 2) コミュニケーション力：家族間の葛藤調整や多職種の見解を束ねる、人にしかできない力
- 3) 権利擁護の知識：独居高齢者の増加に伴い、成年後見制度や身元保証などを適切に扱う力

これらの力を磨く日々を、少しでも「ワクワクする挑戦」として受け止められたなら、脳は再び刺激を受け、子どもの頃のように時間が

ゆっくり流れる感覚が戻ってくるかもしれません。疲れを吹き飛ばすような“アハ体験”が訪れることを願っています。

そして本年5月、福井の地に全国の仲間が集い、日本ケアマネジメント学会が開催されます。「いのち・日常・環境」に向き合う私たちの仕事を深く考える場として、きっと心を揺さぶり、次の時代のケアマネジメントの輪郭を描く契機となるはずで。どうか皆さまのお力添えをお願い申し上げます。



## 一般社団法人 福井県介護支援専門員協会

副会長 細川 智洋 (若狭支部)

若狭支部理事、副会長の細川です、いつもありがとうございます。

寒暖の差が大きい日が続きますが、皆さん体調はお変わりありませんか？

今年度も学術大会が行われました。今大会は学術運営委員会の吉澤理事を中心に、それぞれの支部が協力しながら動いていきました。運営初体験の委員さんもおられたことで、ハラハラドキドキワクワクの舞台裏でした。人が変われば熟練度は下がってしまうかもしれませんが、新しい意見が入ってきます。いろいろな人が交わっていくことで可能性が広がっていくことが非常に楽しみです。

私が所属する若狭支部も新役員のもと研修会が行われています。自分たちが役員の際には思いつかなかった研修を提案してもらえ、非常に楽しみな反面面白企画を自分が出せなかったことをくやしき感じている自分もいます。

日々の業務や上司・部下・ケアマネ会等々に不満や意見をお持ちの方もおられると思います。おなかに溜めず出すことは大切です。が、不満を言うだけでは物事は変わりにくいのです。その不満を解消するための方法も考え、動いてみるか対応できそうな人に伝えてあげてく

ださい。県協会の活動は日常業務に加えての動きになるので、はっきり言って負担です。そんなことする人は「奇抜な人」「物好きさん」です。でも県協会の活動をしている人達は「どうせするなら面白く」「もっと良くしていきたい」って考えている筋金入りの「物好きさん」達です。一緒に県協会の活動に巻き込まれてみませんか？ちょっと面白いですよ。大変ですが。

令和8年度はケアマネジメント学会全国大会があります。北陸ブロック大会も福井担当です。私勉強嫌いでしたが、先頭に行く人たちの話を聞くことは非常に刺激になります。お気軽に飛び込んでみてください。一緒に沼りましょう。



## 一般社団法人 福井県介護支援専門員協会

副会長 西村 栄子 (丹南支部)

丹南支部では、今回の学術大会において2事例の発表を行いました。

1つ目の事例は、コロナ禍をきっかけに取り組んだ在宅勤務についてです。

発表者からは「日々の実践を振り返り、在宅勤務における工夫や成果を整理できたことで、自分自身の学びが深まりました。他事業所からの意見や質問からも新たな気づきを得ることができ、働き方の可能性を前向きに考えるきっかけとなりました。今後もより良い支援と柔軟な働き方を目指していきたいです」との感想が寄せ

られました。

2つ目の事例は、「ケアマネのシャドーワーク」に関する取り組みです。

発表に向けて実施したアンケートにより、日々の支援に埋もれがちなシャドーワークが可視化され、多くの気づきが得られました。業務を整理していく中で、「抱え込まず次につなぐ」「家族へ早期に共有する」といった支援姿勢が強まったことも確認できました。また、働きやすい環境づくりや業務効率化、多職種連携や社会資源の活用など、これからの支援に求められ

る方向性も明確になりました。

今回、他事業所の4人が“発表してみよう”の呼びかけに「いいよ」と快諾し、仕事終わりに集まり準備を進めました。疲れを感じるよりも、むしろ楽しい時間を共有でき、「こういう時間が少なくなったよね」「愚痴や情報交換の場ってやっぱり必要だね」と実感できたことが、何よりの収穫となりました。

丹南支部では、今回の経験を踏まえ、新人からベテランまで気兼ねなく相談できる関係づくりや、必要とされるスキル研修の充実を図り、

会員の声を大切にした活動を進めています。

今後も皆さんの積極的な参加をお待ちしています。



## 一般社団法人 福井県介護支援専門員協会

## 紘谷 洋幸 (福井支部)

令和7年度、ケアマネふくいでは介護支援専門員の皆様が安心して業務に取り組める環境づくりを目指して活動しました。

令和7年7月に4つのテーマ（モチベーション、シャドーワーク、カスタマーハラズメント、ICT・AIの活用）に分かれてグループディスカッションを行い、会員の皆様から貴重な声を聴くことができました。いただいた意見は『現場の声』として10月に行政へ届けました。来年度以降も現場の意見を届けていく取り組みを続けていきたいと思っております。

令和8年3月には『ケアマネ向けセキュリティ・AIの向き合い方』と題して関心が高まっている事項に関して研修会を開催しました。ケアプランデータ連携システムについても研修会

で取り上げ、会員の皆様の関心のある事柄を中心に企画しました。

また、研修会の後には『なんでも相談会』を開催し、介護支援専門員が気軽に相談できる体制を整え、仲間同士が支え合える組織づくりを進めました。

そのほか、福井市終活意見交換会と福井市廃棄物減量等推進会議への委員の派遣協力、オレンジハート運動での相談コーナーへの会員の派遣、福井市しあわせ終活フェスタへの出展の協力など委員の派遣や参加を通じて地域福祉の向上に貢献しました。

ケアマネふくいはまだまだ発足したばかりですが「現場に寄り添う支部」として皆様とともに歩み、支え合いながら、より良い介護支援専

門員の未来を築いてまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 一般社団法人 福井県介護支援専門員協会

理事 吉澤 るみ子 (坂井支部)

昨年12月13日、福井県自治会館にて、福井県介護支援専門員協会学術大会が開催されました。今回は坂井支部が主に担当し、私、吉澤が微力ながら実行委員長を務めさせていただきました。

大会テーマは、「未来を創るケアマネジメント～ケアマネジャーの働く環境を再考する～」でした。

第一部では、奈良県福祉保健部の田中明美次長を講師にお迎えし、基調講演を行いました。ケアマネジャーの今を振り返り、講師ご自身の経験も交えたお話をいただき、ケアマネジメントの本質を改めて考える貴重な時間となりました。

第二部の学術発表ではシャドーワーク、ICT活用、能登地震の振り返り・・・などケアマネジャーの働く環境に関する報告が行われました。いずれも大変興味深く、今後の働き方改革や業務改善につながる可能性を感じました。坂井支部からは、『本人・家族との電話以外の連絡手段の実態調査～電話以外の連絡手段を用いれば、ケアマネ業務の効率化・負担軽減につながるのか～』と、『災害時の組織対応の限

界と個人負担の限界～能登地震における福井県坂井地区介護支援専門員の役割と負担～』の2事例を発表いたしました。

本大会を無事終えることができましたのは、執行部の皆様をはじめ、各支部の実行委員の皆様のご協力とご尽力の賜物です。心より感謝申し上げます。また、抄録作成から当日の発表まで真摯に取り組んでくださった発表者の皆様にも、改めてお礼申し上げます。

学術大会は毎年開催しております。会員皆様におかれましては、研究発表やご参加を通じて、学びと交流の機会としていただければ幸いです。

なお、来る5月23・24日に開催される「日本ケアマネジメント学会 第25回 研究大会inふくい」では、『SAKAI式事例検会』のワークショップを運営いたします。事例を視覚化することで、事例に対する積極的な関心を高め、ケアマネジャーのアセスメント力向上を目指す取り組みです。このワークショップを通じて、全国のケアマネジャーの皆様にも広く知っていただき、活用していただければと願っております。ケアマネSAKAIでは、10年にわたり

事例検討会を開催しながら自己研鑽を重ねてまいりました。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【追記】：今年度からケアマネSAKAIに仲間入りした「赤いキャラクター」ですが、フォロワーも増え、ますますお茶目に活躍中です。しかし、誕生から1年が経とうとしておりますが、実はまだ名前が決まっておられません。皆様に愛される名前を募集しております。どうぞよろしくお願いいたします。



### 一般社団法人 福井県介護支援専門員協会 (奥越支部)

介護保険制度の開始から 20 年余りが過ぎ、私たちの取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。奥越支部においても、事業所の縮小やケアマネジャーの減少といった課題に直面し、支部の在り方が改めて問われています。

こうした中、私たちは昨年末の 12 月に開催された学術大会にて、「奥越地区の介護支援専門員の業務範囲とシャドーワークの実態調査」と題した発表を行いました。アンケート調査の結果、地域特性ゆえにケアマネジャーが背負わざるを得ない過酷な実態が浮き彫りとなりました。この発表は、私たちの置かれた環境を可視化し、今後の改善に向けた重要な一歩となりました。

私たちの原点は、利用者の皆様が住み慣れた地域で、周囲に支えられながら穏やかに暮らせるよう支援することです。しかし現実には、孤立した高齢世帯の増加や複雑な家族状況の中、ケアマネジャーが葛藤しながら「シャドーワーク」で支えざるを得ない場面も少なくありません。

また、先日開催された奥越地域医療・介護連携の協議の場では、訪問入浴事業所が無いことや医療依存度の高い重度者の受け入れ先確保が困難といった深刻な課題も共有されました。誰もが必要なサービスを受けられ、置き去りにされない地域にしたいという切実な願いは、私た

ち奥越地区ケアマネジャーの共通の想いです。

課題は山積みですが、学術大会での知見を活かし、一歩ずつ進んでいきたいと思えます。完璧を目指すことはできませんが、まずは私たち自身がゆとりを持ち、笑顔で仕事ができるよう、ケアマネジャー同士の横のつながりを大切にしていきたいと思えます。



## 一般社団法人 福井県介護支援専門員協会

理事 村上勝一 (二州支部)

令和7年12月13日に第14回度福井県介護支援専門員協会学術大会福井県自治会館にて開催され、基調講演と事例発表が行われました。

第二部の事例発表ではシャドーワークやICTの活用、ケアマネジャーの業務負担など、様々なテーマで発表者の取り組みが披露され、どのケースも非常に興味深く、また今後のケアマネジメントの在り方を考える良い機会となりました。

二州支部では9月17日に「ケアマネジャーとして、経済的に困窮している世帯に関わることは」と題した研修会、2月19日に「厳しい声・ハラスメントに備えるメンタルヘルス&実践スキル」と題した研修会が開催されました。また、関係者間の交流を目的に12月18日に顔の見える交流会を開催し、ケアマネジャーのみならず、医師や看護師、病院の相談員など様々な職種が集まり親交を深めました。

私たちケアマネジャーは、普段から数多くの利用者やその関係者との関りを持っており、その中で同じ悩みを共有し問題解決につながる時があれば、（言い方はあまり良くないですが）責任や業務範囲外の事を押し付けられる事も多々あります。

そういった中で思い悩みながらケアマネジャーとしての経験を積み重ねていくのかもしれませんが、中には思い悩みすぎて離職するケアマネジャーもいらっしゃると思います。

少しでも離職する方が居なくなるよう、様々

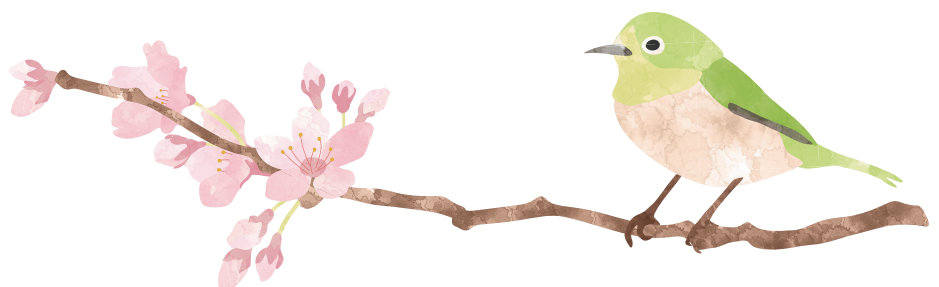
な状況を打破する力を身に付けたり、悩みを共有できる仲間を増やせるような研修会や交流会が増えていくことを願っています。

令和8年度も当協会では研修会や大会などの開催を予定しています。

もし運営に協力していただける方がいらっしゃいましたら、是非ともお声かけいただければ幸いです。

また、ご意見ご要望などをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますので、事務局までご連絡いただければと思います。

少しずつ暖かくなってきましたが、まだインフルエンザやコロナが流行っているようなので、体調に気を付けて過ごしていきましょう。



## 研修委員会より



研修委員会では、法定研修（主任介護支援専門員更新研修・主任介護支援専門員研修）資質向上研修 協会独自研修を開催しています。

令和7年度後半に開催した研修では、主任介護支援専門員研修57名 主任介護支援専門員30名が修了しました。主任介護支援専門員研修は、例年大雪にて日程変更することがあったため、今回は、12月までに集合研修を入れ、1月はWEB研修のみとしました。その結果、1月は大雪警報が出る日もありましたが、研修日等変更せず開催できました。令和9年度からは、介護保険法の改定に伴い、法定研修の開催方法が変更になります。現時点では詳細は不明ですが、方針が決定しましたら、皆様にご報告させていただこうと思います。

資質向上研修では、11月17日(WEB)「制度の併用」75名 12月15日(WEB)「精神科疾患への理解」60名が受講されました。曖昧な知識を明確にできたこと、精神科疾患を改めて勉強することで、症状の把握の必要性を再認識できたと思います。

今年度最後の資質向上研修として、ファシリテーター養成講座が2月19日(WEB) 3月11日(集合)が開催されます。可視化、視覚化、会議成果物作成の基本を学んでいただきたいと思います。

一般社団法人 福井県介護支援専門員協会  
理事 浅井 智恵美 (福井支部)

## 福井ケアマネ LINE公式アカウント 開設しました。

皆さんとの情報共有の場にしていきたいと思います。  
研修案内等も載せていきます。

友達追加はこちらからお願いします。  
<https://lin.ee/QQ4weCB>



一般社団法人 福井県介護支援専門員協会

おともだち



募集中

一般社団法人

**福井県介護支援専門員協会**

〒918-8004 福井県福井市木田3-8-16

【事務局】

〒918-8231 福井県問屋町1-10 ユニックスビル112号

TEL 0776-58-3277/FAX0776-28-6877

■ 福井県介護支援専門員協会のホームページ <http://www.fkeamane.com>  
各種研修会や県内各支部の日程、過去の会報誌等を掲載してあります